※令和４年度以降入学生用

学校番号	４０２

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	情報Ⅱ（実教出版）						
副教材等	情報Ⅱ学習ノート（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

情報Ⅰで取り組んだ情報関連の基本事項をもとに応用的な内容の理解や習得を目指します。
そして、可能な限り応用的な実習を取り入れ、様々な知識や技能を場面や状況に応じて適切かつ効果的に活用できるようになることを目指します。

２　学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見・解 決を行う学習活動を通して，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効 果的，創造的に活用し，情報社会に主体的に参画し，その発展に寄与するための資質・ 能力を次のとおり身に付けることを目指す。

（１） 多様なコミュニケーションの実現，情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。

（２） 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的，創造的に活用する力を身に付ける。

（３） 情報と情報技術を適切に活用するとともに，新たな価値の創造を目指し，情報社会に主体的に参画し，その発展に寄与する資質を身に付ける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	情報に関する科学的な知識・技能を身に付け、社会における情報や情報技術の意義や役割を理解している。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、思考を深め、適切に判断し表現することができる。	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用しようとする態度が身に付いている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	情報社会	・情報社会の進展 ・知的活動の変化 ・X-Tech による社会の変化 ・情報セキュリティ ・クラウドサービスの利用 ・法と制度の整備 ・メディアとさまざまなコンテンツ ・コミュニケーションの多様化 ・コンテンツの作成	a:学習内容を理解している。 b:学習内容について考え、諸問題に必要な知識を判断できる。 c: 学習内容に関心を持ち主体的に実社会と繋がりを意識しうえで取り組むことができる。	定期考査 レポート	学習観察 定期考査 レポート	学習観察 レポート 学習ノート
	データサイエンス	・データサイエンスと社会 ・データの収集 ・データの整理と変換 ・データの分析と可視化 ・統計的推測 ・機械学習の概要 ・回帰による分析 ・分類による分析 ・クラスタリングによる分析 ・評価と意思決定	a:学習内容を理解している。 b:学習内容について考え、諸問題に必要な知識を判断できる。 c: 学習内容に関心を持ち主体的に実社会と繋がりを意識しうえで取り組むことができる。	定期考査 課題作成	学習観察 定期考査 課題作成 相互評	学習観察 課題作成 相互評価
後期	プログラミング言語	・JavaScript の基礎 ・Python の基礎 ・Python のモジュール	a:プログラミングの知識・技術を理解している。 b: プログラミングに必要な技術を判断し課題を作成することができ、他者の作品を評価できる。 c: プログラミングに主体的に取り組み工夫することができ、他者の作品を評価できる。	定期考査 課題作成	学習観察 定期考査 課題作成 相互評価	学習観察 課題作成 相互評価 学習ノート
	情報システム	・社会の中の情報システム ・情報システムの分類 ・情報システムの開発 ・設計手法 ・Web システムの仕組み ・データの送受信の方法 ・Web API ・ファイル操作 ・データベースの操作 ・計測・制御システム	a:学習内容を理解している。 b:学習内容について考え、諸問題に必要な知識を判断できる。 c: 学習内容に関心を持ち主体的に実社会と繋がりを意識しうえで取り組むことができる。	定期考査 課題作成	学習観察 定期考査 課題作成 相互評価	学習観察 課題作成 相互評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度